Ⅱ　宗谷農業改良普及センターの普及活動方針

近年の酪農情勢は、飼料価格や燃料価格の高騰など依然厳しい見通しが続いているものの、加工用乳価の引き上げや生乳生産抑制の解消など、経営向上の兆しも見えてきている。

宗谷管内は広大な草地資源を活用した生乳生産を利点とし、家族経営体と法人経営体がそれぞれの特徴を活かしながら発展してきた。また道内でも早くから地域営農支援組織が構築され、良質粗飼料の確保と生乳生産量の向上に寄与してきた経緯がある。

本道の農業は、我が国の食料供給に貢献するとともに、持続可能で潤いのある農業・農村を確立することが必要である。宗谷管内においても、第７期北海道農業・農村振興推進計画（めざす姿）に掲げる４つの施策推進方針、また、第８次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画、宗谷地区農業振興方策の実現に向けて、普及活動を展開する。

１　食料を安定的に供給する農業・農村の確立

宗谷管内では近年、酪農家戸数の減少や気象変動による乳牛・粗飼料生産への影響などから、生乳生産量が伸び悩む実態がある。生産性が高い農業を展開するためには、生産基盤の計画的な整備と適切な利用が必要である。関係機関・団体、総合振興局、試験場などの「食料システム関係者※」との連携により、食料の安定生産を推進する。

(1)　生産基盤の強化

ア　気象変動に対応できる生乳生産に向け、乳牛飼養環境の改善を推進する。

イ　安定した粗飼料確保に向け、草地更新やほ場排水性の改善等を推進する。

ウ　スマート農業を推進し、データ化による優れた技術の普及・定着を推進する。

(2)　食料の安定生産

ア　競争力のある生乳生産に向け、飼養管理技術の向上と衛生的乳質の徹底を図る。

イ　粗飼料の栄養品質向上を推進し、生乳生産量の向上を図る。

ウ　飼養施設や搾乳ロボットなど、合理的な搾乳システム導入による省力化を推進する。

エ　草種や土壌肥沃度に応じた施肥や農薬管理を推進するとともに、家畜ふん尿の適正活用等で、国際価格の影響を受けにくい生産体制の構築を図る。

オ　乳肉複合経営等の多様な肉用牛生産を推進するとともに、飼養管理技術の向上による肥育素牛の増体効率改善を推進する。

カ　家畜の資質向上に向けて、ゲノム育種評価法を用いた牛群改良の取組を支援する。

キ　安定的な生乳生産のため、家畜伝染病の発生防止、まん延防止を推進する。

(3)　国内外の食市場への販路の拡大

ア　高品質な生乳出荷を持続させ、様々な機会を活用した情報発信を推進する。

※「食料システム関係者」とは、農業者等の生産者から流通・消費に至る関係者全体を指す。

２　環境と調和のとれた持続可能な農業・農村の確立

近年は、気候変動に対する適応策の推進と、環境と調和した農業の推進が求められている。

宗谷管内では土地基盤に恵まれた条件を活かしながら、持続可能な食料システムの構築に向けて、「みどりの食料システム戦略」「第８期北海道クリーン農業推進計画」および「第４期北海道有機農業推進計画」に基づいた活動として、食料システム関係者と連携し、クリーン農産物や有機農産物の生産に向けた農業技術の普及を推進する。

(1)　環境と調和した農業の推進

ア　クリーン農業の推進による環境負荷軽減を促進する。

イ　農業用廃プラスチックの適正処理、家畜排せつ物の適正管理・活用の取組を推進する。

ウ　エゾシカなどの野生動物による、農業被害を軽減する取組を推進する。

(2)　持続可能な農業・農村の推進

ア　ＧＡＰの実践を推進し、農業・農村の持続的可能性確保を図る。

イ　近年、頻発・激甚化する自然災害に対する備えを強化するとともに、大規模災害発生時後の営農再開など、復興に向けた取組を推進する。

3　誰もが安心して住み続けられる農業・農村の確立

宗谷管内では、酪農家戸数の減少抑制や地域営農支援組織の人材確保が課題となっている。また、地域の生乳生産量の確保にあたって、意欲的かつ経営能力の高い担い手を育成していく必要がある。

このことから、家族経営や法人経営体の体質強化を推進するとともに、女性農業者については一層活躍できる環境を整え経営管理能力を向上を、新規就農者については高度で専門的な研修と地域における円滑な受入体制の充実を推進する。

さらに、地域営農支援組織の育成・強化を図るとともに、地域を支える人材の確保・育成を、関係機関・団体、総合振興局、試験場と連携し推進する。

(1)　農業経営を担う人材の確保・定着

ア　新規参入者が円滑に就農・営農できる環境整備を関係機関・団体と連携し取組むとともに、実践的な研修と個別支援を通じて早期に経営が確立できる取組を推進する。

イ　青年グループ支援を通じて、優れた農業経営者の育成に向け経営力や技術力を高める支援体制を整えるとともに、個別支援や研修会等を通じた育成支援を推進する。

エ　法人経営での円滑な経営継承や人材の育成と定着に向けた支援を行う。

オ　女性農業者グループ支援を通じて、経営技術の習得など資質向上を図る取組を推進する。また地域をリードする女性農業者の育成と、能力の発揮できる環境作りを推進する。

(2)　農業経営体の安定・発展

ア　意欲の高い担い手が新たな展開ができるよう、新技術導入に向けた支援を行うとともに、生産技術の高度化を推進する。

イ　経営の安定、体質強化を図るために経営管理技術の向上支援に取り組む。

(3)　経営体を支える地域営農支援組織の育成・強化

ア　生産規模拡充による労働負担軽減を図るため、既存のコントラクタやＴＭＲセンターの内容充実を進めると共に、労働力確保対策や組織間の補完体制の整備などを推進する。

イ　スマート農業技術や新たな生産システムの導入と定着に向けた支援を行う。

(4)　地域を支える多様な人材の活躍

ア　多様な人材を受け入れるにあたり、作業のマニュアル化や労務管理、働く環境の整備などマネジメント力強化に向けた支援を行う。

(5)　快適で安心して暮らせる生活の場づくり

ア　農業法人や農業支援組織の拡充等による農村全体の雇用確保を促進する。

イ　多様な人材が農業への関心を抱くよう、関係機関・団体、総合振興局と連携し、動機付けとなる取組を支援する。

4　消費者と生産者が支え合う農業・農村の確立

持続可能な農業・農村を確立し、食料の安定生産を継続していくためには、道民の共感が不可欠となる。宗谷の草地型酪農が支える「食」の大切さを発信し、地域住民への理解促進を通して、農村づくり、農村の魅力発信を関係機関・団体、総合振興局と連携し推進する。

(1)　愛食運動の総合的な展開

酪農家等が地場農産物を加工・活用する取組を支援するとともに、地域と結びつく食育の取組を支援する。

(2)　地域住民が一体となって創る活力ある農村づくり

地域の将来像について検討する活動を支援するとともに、農村が持つ景観や地域資源の活用に向けた活動を支援する。

(3)　道民のコンセンサスの形成

農業者によるファームステイやふれあいファーム、農村ツーリズムなどを通じ、農村の理解を促し、農業に対する理解が深められる取組を支援する。